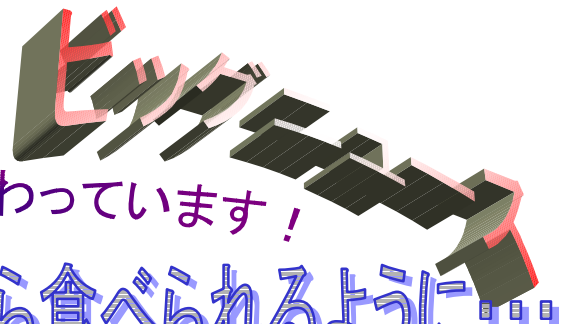


後楽荘の今年一番の

口から食べることの喜びを味わっています！

「胃瘻(いろう)」の方、お二人が口から食べられるように...



※ 「胃瘻とは、」の説明は、次のページに簡単に説明しています。

お二人に共通したのは、「**食べたい！！**」と言う気持ちが強いことでした。



石崎正良様 T6. 6. 5生れ 90才

H17. 12. 肋骨、骨折で入院

入院中、**胃瘻**になられる。

退院後、老人保健施設と在宅介護で、生活されていましたが、認知症もみられるようになった為、在宅介護が困難と思われ 当施設に H18. 5. 22. に入所されました。



入所後、石崎さんの声には力があり、歩行される足も比較的しっかりされているので、**胃瘻から経口**への試みを職員と看護師一丸となり進める事にしました。

4~5ヶ月間「食べたい」の気持ちをより一層強める為、食事の時間の度に、食堂に通っていただきました。

H18. 10頃から1日1回のフリン・ゼリーなどからはじめ重粥などを徐々に勧め

H18. 12頃から軟菜食もはじめました

H19. 2. 8注入食を中止

H19. 2. 13より重粥をお粥に替えた食事

※ **経口**とは、口から栄養(食事)を摂取することです。

ドライブにも行っています



谷川妙子様 S7. 3. 17生れ 75才

H15. 1の脳出血の後遺症で右半身麻痺、車椅子での生活になられる。デイサービスとショートステイを使いながら在宅ケアを続けて居られましたが、H17. 12. 20当施設に入所されました。入所後、H18. 7. 14肺炎で入院。入院中、嚥下障害となり病院で嚥下リハビリを続けていましたが、H18. 9. 25経口での食事は無理と判断、病院にて**胃瘻造設**しました。

H18. 10. 10退院後、帰荘。

石崎さん同様、食事の時間、食堂に通っていただきながら、嚥下リハビリを12月よりスタート

H19. 2. 5経口摂取への取り組みを行う

(朝 経管 昼・夜 少なめで経口)

H19. 2. 19経管栄養を中止

経管にされてからの日数が少なかったせいか、比較的早く口から食べられるようになった、と思います。

帰荘後、本人の声に力があり「食べたい！！」と言う意欲ある様子だったので、石崎さんから少し遅れて**胃瘻から経口**への試み、第2段を介護職・看護師とではじめることにしました。



足のリハビリも怠りません

お二人共、嚥下(飲み込み)力が良く、ご自分の手で食べておられます！

4ヶ月余りが過ぎミキサー食から、軟菜食・刻み食と、順調に経口食が進んでいます。

只今、3人目の方に挑戦中です。一人でも多くの方に、もう一度、口から食べられる喜びを感じていただきたく、職員一同努力しています。「食べたい」が大切です！！